

Country of Origin: JP

Utility Model Publication Number: 3046354

Publication Date: December 10, 1997

Applicant: Alps Kawamura

[Utility model registration claim]

[Claim 1] It is constituted by the frame which consists of a left side edge bone, a right side edge bone, and a middle bone of a necessary number, and the mounting cloth stuck on the whole surface. Each end face of said left side edge bone and right side edge bone which constitute a frame, and the middle bone of a necessary number is combined free rotation by the pivot. The whole with a surface cloth A necessary sector and the necessary fan combination hat which bend a surface cloth between a left side edge bone, a right side edge bone, and a middle bone, and it comes to prepare in the shape of a rod possible folding while being able to develop freely circularly centering on a pivot.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3046354号

(45) 発行日 平成10年(1998) 3月6日

(24) 登録日 平成9年(1997)12月10日

(51) Int. CL ⁶	識別記号	庁内整理番号	P I	技術表示箇所
A 4 2 B	1/00		A 4 2 B 1/00	T
A 4 5 B	27/00		A 4 5 B 27/00	A

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 F D (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願平9-7790

(22) 出願日 平成9年(1997) 8月18日

(73) 実用新案権者 390034359

アルプス・カワムラ株式会社

東京都中央区東日本橋3丁目10番15号

(72) 考案者 河村 浩延

東京都中央区東日本橋3丁目10番15号 ア

ルプス・カワムラ株式会社内

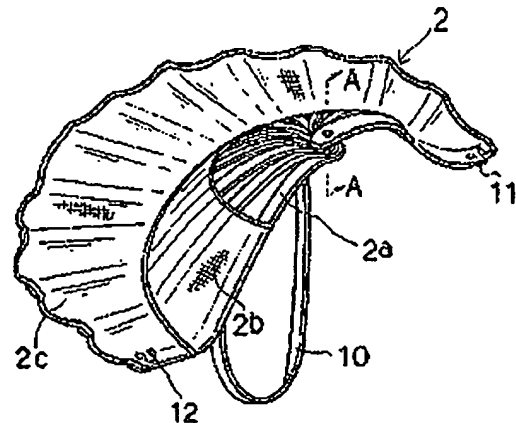
(74) 代理人 弁理士 増田 政経

(54) 【考案の名称】 扇子兼用帽子

(57) 【要約】

【課題】 この考案は、楕状体から1/3～1/2およびそれ以上に展開して風を送る扇子に、円形に全開し、かつその左右側縁を連結して帽子になる、扇子と帽子とを兼用する扇子兼用帽子の提供。

【構成】 左側縁骨と右側縁骨と所要本数の中間骨とからなる骨格と、その一面に貼着される表装布により構成され、骨格を構成する前記左側縁骨と右側縁骨と所要本数の中間骨の夫々の基端を支軸により回動自在に支承し、全体が表装布と共に、支軸を中心に所要の扇形および円形に展開自在であると共に、表装布を左側縁骨と右側縁骨と中間骨の間に折り曲げて棒状に折畳み可能に設ける。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 左側縁骨と右側縁骨と所要本数の中間骨とからなる骨格と、その一面に貼着される表装布により構成され、骨格を構成する前記左側縁骨と右側縁骨と所要本数の中間骨の夫々の基端を支軸により回動自在に結合し、全体が表面布と共に、支軸を中心に所要の扇形および円形に展開自在であると共に、表面布を左側縁骨と右側縁骨と中間骨の間に折り曲げて摺状に折畳み可能に設けてなる扇子兼用帽子。

【請求項2】 表装布は、左側縁骨、右側縁骨および中間骨の中間部と、下部の表面に接着して表装されることを特徴とする請求項1記載の扇子兼用帽子。

【請求項3】 表装布は、立体裁断して側壁部面用布と鍔部面用布から設け、その側壁部面用布の下縁と鍔部面用布の内径縁を接続し、この表装布を前記左側縁骨、右側縁骨および中間骨において夫々の中間部および下部に接着して表装されることを特徴とする請求項1または請求項2記載の扇子兼用帽子。

【請求項4】 左側縁骨、右側縁骨および所要本数の中間骨は、夫々扁平であると共に、扇子にしたときの基部となり、また帽子にしたときの頂面部となる上部と、扇子にしたときの風送り羽根下半部となり、帽子にしたときの側壁部となる中間部と、扇子にしたときの風送り羽根上半部となり、帽子にしたときの鍔部となる下部とが、変形S形に湾曲して形成されることを特徴とする請求項1、請求項2または請求項3記載の扇子兼用帽子。

【請求項5】 左側縁骨の表装布の下面に連結雄具を取付け、右側縁骨の表装布の上面に連結雌具を取付け、左側縁骨、右側縁骨および中間骨を円形に展開して最後に対応する左側縁骨、右側縁骨の部分と連結雄具と連結雌具とを連結してその帽子となった状態を保持する請求項1、請求項2、請求項3または請求項4記載の扇子兼用帽子。

【図面の簡単な説明】

【図1】 この考案の扇子兼帽子を半展開し、扇子として使用する状態を示す斜視図である。

【図2】 同じく、この考案の扇子兼帽子を全展開し、帽*

2

*子として使用する状態を示す斜視図である。

【図3】 同じく、この考案の扇子兼帽子の折畳み状態を示す斜視図である。

【図4】 図1のA-A線に沿う断面図である。

【図5】 同じく、図1のB方向に視た内側面図である。

【図6】 左側縁骨、右側縁骨および中間骨の各単骨の斜視図である。

【符号の説明】

1 扇子兼帽子

2 扇子

2a 基部

2b 風送り羽根下半部

2c 風送り羽根上半部

3 帽子

3a 頂面部

3b 側壁部

3c 鍔部

4 左側縁骨

4a 上部

20 4b 中間部

4c 下部

5 右側縁骨

5a 上部

5b 中間部

5c 下部

6 中間骨

6a 上部

6b 中間部

6c 下部

7 骨格

8 表装布

8a 側壁部面用布

8b 鍔部面用布

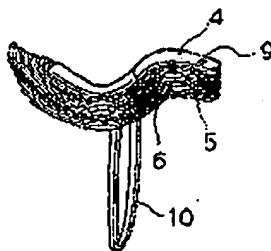
9 支軸

10 ゴム紐

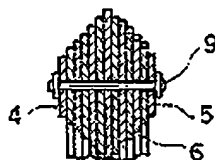
11 連結雄具

12 連結雌具

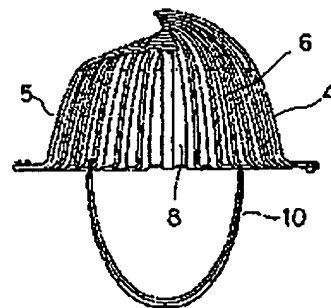
【図3】



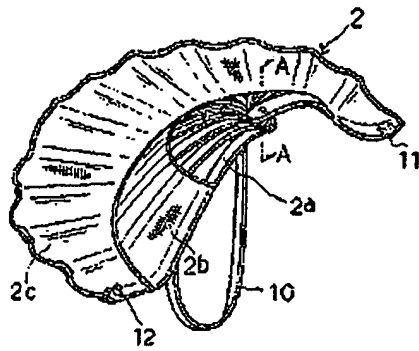
【図4】



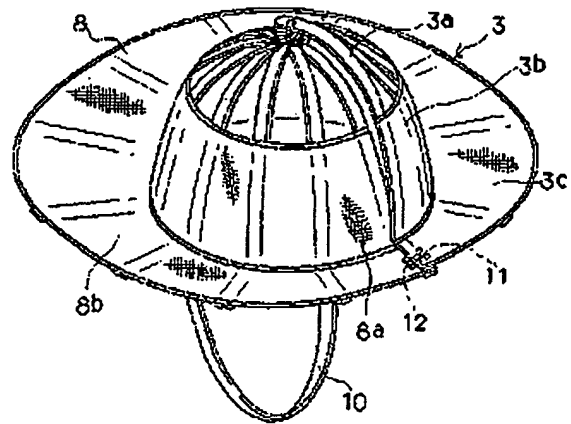
【図5】



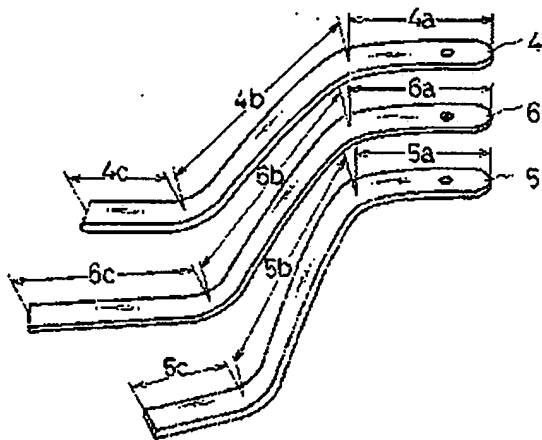
【図1】



【図2】



【図6】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

この考案は、棒状体から $1/3 \sim 1/2$ およびそれ以上に展開して風を送る扇子に、円形に全開し、かつその左右側縁を連結して帽子になる、扇子と帽子とを兼用する扇子兼用帽子に関する。

【0002】**【従来技術】**

従来、展開して一定平面積となる扇子は、古くから風を送る単一機能の携帯用道具として知られている。また夏の炎天から頭部を保護する麦藁帽、パナマ帽など各種の日除け機能の帽子が提案されている。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

この考案は、一つのもので、扇子と帽子の両方の機能を兼用して具えることを目的になされたものである

【0004】**【課題を解決するための手段】**

左側縁骨と右側縁骨と所要本数の中間骨とからなる骨格と、その一面に貼着される表装布により構成され、骨格を構成する前記左側縁骨と右側縁骨と所要本数の中間骨の夫々の基端を支軸により回動自在に結合し、全体が表面布と共に、支軸を中心に所要の扇形および円形に展開自在であると共に、表面布を左側縁骨と右側縁骨と中間骨の間に折り曲げて棒状に折畳み可能に設けてなる扇子兼用帽子にある。

【0005】

表装布は、左側縁骨、右側縁骨および中間骨の中間部と、下部の表面に接着して表装されるようにしてもよいものである。

【0006】

表装布は、立体裁断して側壁部面用布と鐙部面用布から設け、その側壁部面用布の下縁と鐙部面用布の内径縁を接続し、この表装布を前記左側縁骨、右側縁骨

および中間骨において夫々の中間部および下部に接着して表装されるようにしてもよいものである。

【0007】

【0008】

左側縁骨、右側縁骨および所要本数の中間骨は、夫々扁平であると共に、扇子にしたときの基部となり、また帽子にしたときの頂面部となる上部と、扇子にしたときの風送り羽根下半部となり、帽子にしたときの側壁部となる中間部と、扇子にしたときの風送り羽根上半部となり、帽子にしたときの鍔部となる下部とが、変形S形に湾曲して形成されるようにしてもよいものである。

【0009】

左側縁骨の表装布の下面に連結雄具を取付け、右側縁骨の表装布の上面に連結雌具を取付け、左側縁骨、右側縁骨および中間骨を円形に展開して最後に対応する左側縁骨、右側縁骨の部分を連結雄具と連結雌具を連結してその帽子となった状態を保持するようにしてもよいものである。

【0010】

【考案の実施の形態】

左側縁骨と右側縁骨と所要本数の中間骨とからなる骨格と、その一面に貼着される表装布により構成され、骨格を構成する前記左側縁骨と右側縁骨と所要本数の中間骨の夫々の基端を支軸により回動自在に結合し、全体が表面布と共に、支軸を中心に所要の扇形および円形に展開自在であると共に、表面布を左側縁骨と右側縁骨と中間骨の間に折り曲げて棒状に折畳み可能に設け、表装布を、立体裁断して側壁部面用布と鍔部面用布を設け、その側壁部面用布の下縁と鍔部面用布の内径縁を接続し、この表装布を前記左側縁骨、右側縁骨の中間部および下部に接着し、その中間を、中間骨の中間部および下部の夫々の上面に接続する部分を接着して表装する扇子兼用帽子。

【0011】

【実施例】

以下、この考案の扇子兼帽子を実施の一例である図面により説明すると、この考案の扇子兼帽子1は、図1に示すように、半分ほど展開して扇子2になる状態

と、図2に示すように、全展開して帽子3になる状態とがある。

【0012】

左側縁骨4と右側縁骨5と所要本数の中間骨6とからなる骨格7と、その一面に貼着される表装布8により構成され、骨格7を構成する前記左側縁骨4と右側縁骨5と所要本数の中間骨6の夫々の基端を支軸9により回動自在に支承し、全体が表面布8と共に、支軸9を中心に所要面積の扇形および円形に展開自在であると共に、表面布8を左側縁骨4と右側縁骨5と中間骨6の間に折り曲げて棒状に折畳み可能に設けてなるものである。

【0013】

前記左側縁骨4、右側縁骨5および所要本数の中間骨6は、夫々偏平であると共に、扇子2にしたときの基部2aとなり、また帽子3にしたときの頂面部3aとなる上部4a、5a、6aと、扇子2にしたときの風送り羽根下半部2bとなり、帽子3にしたときの側壁部3bとなる中間部4b、5b、6bと、扇子2にしたときの風送り羽根上半部2cとなり、帽子3にしたときの鍔部3cとなる下部4c、5c、6cとが、図6に示す如く、変形S形に湾曲して形成される。

【0014】

表装布8は、左側縁骨4、右側縁骨5および中間骨6の中間部4b、5b、6bと、下部4c、5c、6cの表面に接着して表装される。そしてこの実施例では、立体裁断して側壁部面用布8aと鍔部面用布8bを設け、その側壁部面用布8aの下縁と鍔部面用布8bの内径縁を縫製・接着その他の適宜手段で接続し、この表装布8を、例えば、展開した状態で表側から両側縁を適宜巾折り返して内面を前記左側縁骨4、右側縁骨5の中間部4b、5bおよび下部4c、5c、に接着し、その中間を、中間骨6の中間部6bおよび下部6cの夫々の上面に接続する部分を接着するものである。

【0015】

前記左側縁骨4、右側縁骨5は、曲げ加工の容易性と、端板としての強度を得るために、二枚を張合わせて設けてもよいものである。また竹などの自然材料はもとより、合成樹脂材による成型もできるものである。

【0016】

ゴム紐10は、その左右端は中間骨6の表面と表装布8の裏面との間に接着して配置し、扇子2にしたとき束ね紐、帽子3にしたとき顎紐となる。連結雄具11は、左側縁骨4の表装布8の下面に取付け、連結雌具12は、右側縁骨5の表装布8の上面に取付け、左側縁骨4、右側縁骨5および中間骨6を円形に展開して最後に対応する左側縁骨4、右側縁骨5の部分を連結雄具11連結雌具12を連結してその帽子3となった状態を保持するものである。

【0017】

【考案の効果】

この考案は、以上のようになるから、S形変形の棒状体から適宜展開して、風を送る扇子に、さらに全開して対応する左右側縁骨部を連結して帽子となり、風を送る道具としての扇子と、炎天化を歩行するときの帽子として二通りに利用し、重宝できるものである。